



# Weekly Market Report

Sep 11, 2017

FX, JPY Interest Rate, Topics

## 1. 為替相場概況

一層緊迫する朝鮮半島情勢。引き続きドル円の下値を探る展開か。

### USD/JPY (1週間の値動き)



(出所) Bloomberg

### コメント

先週のドル円相場は、週を通して朝鮮半島情勢の緊迫化懸念からリスク回避の円買いが優勢となった。週初、北朝鮮による6回目の核実験報道を受けて109円台後半でスタート。その後、9日の北朝鮮建国記念日前に大陸間弾道ミサイル(ICBM)を発射する可能性が報じられ、さらにはブレイナードFRB理事のハト派発言、タカ派と目されていたフィッシャーFRB副議長の辞任報道、米国の自然災害と政治的混乱に対する警戒感、米金利の低下等を材料に円買いが優勢な展開が続き、週末には10か月ぶりに107円台まで下落して週の取引を終えている。今週のドル円相場も、引き続き円高進行を警戒する一週間となるだろう。11日の国連安保理の制裁決議案に対する北朝鮮の対応により、北朝鮮と米国との緊張関係が一段と増す可能性があり、さらには米国南東部を襲ったハリケーン「ハービー」、「イルマ」による経済被害の影響等も考えるとドル円の上昇余地は乏しく、足元は下値を探る展開が続くだろう。

(市場営業部/山添)

### 今週の経済指標 (予定)

日付	イベント	予想
9/14(木)	(米) 消費者物価指数 (前月比)	0.3%
9/14(木)	(英) BOE政策金利発表	0.25%
9/14(木)	(米) 新規失業保険申請件数	300K
9/15(金)	(米) 小売売上高 (前月比)	0.1%
9/15(金)	(米) NY連銀製造業景気指数	18.0

### USD/JPY (2年間)



### 今週のレンジ予想 (USD/JPY)

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
國井靖子	105.50 - 109.50	北朝鮮リスクやハリケーンへの警戒から上値重い推移を予想。週後半の米経済指標で米追加利上げを見極める展開。
川合隆行	106.00 - 109.50	米朝対立の懸念に加え、14日の米CPIの結果によっては米追加利上げ期待後退の可能性もあり、ドルは軟調な展開か。

## 2. 円金利相場概況

地政学リスク懸念や米政権への不透明感から債券市場は堅調に推移か

### 10年国債金利と債券先物 (1週間の値動き)



### コメント

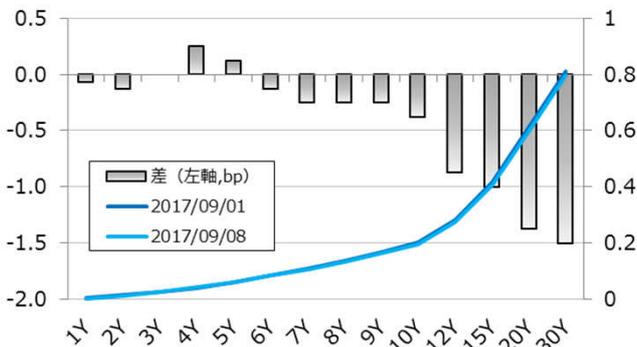
(出所) Bloomberg

先週の国内債券市場は、北朝鮮にかかわる地政学リスクが意識され、円高・株安・債券高の展開となった。週初は前週の北朝鮮の核実験実施の報道によるリスクオフからの金利低下の影響をそのままにマイナス圏からのスタート。5日の10年債入札は結果が弱めだったことから一時円金利上昇。5日NY時間にFRB高官が米利上げについて慎重な姿勢を表明したことからドル安円高が進み、円金利は0.028%の週最高値まで上昇するもすぐ反落した。7日の30年債入札は市場予想を下回った為、円金利上昇するも、ECBが金融政策の現状維持を決定したことや、メキシコで発生した地震の影響もあり107円台まで進行した円高につられ、円金利は急降下し再度マイナス圏に突入。その後債券価格は持ち直し0.004%で週の取引を終えた。

今週は、北朝鮮の建国記念日も過ぎ、米債務上限も上院で可決した等、円安・債券高要素はあるものの、依然北朝鮮のICBM発射懸念や、20日に控えているFOMCの金融政策見極めの動き等もあり、債券市場は堅調に推移すると思われる。(市場営業部/川合)

### 金利スワップ変化 (1週間)

(%)



### 5年円金利スワップ推移 (2年間)

(%)



### 今週のレンジ予想 (10年国債利回り)

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
後藤賢太郎	-0.02% - 0.03%	欧米金利の先高感の後退や根強い地政学的リスクから円高圧力が上がり易く、長期金利は当面ゼロ金利を挟む展開。
廣瀬友絵	-0.03% - 0.02%	世界的な金利低下圧力に加え、北朝鮮情勢を巡る地政学リスクからの円高が更に進行すれば、長期金利ももう一段の低下か。

### 3. 今週のトピックス

#### 2017年北朝鮮情勢と為替相場の推移について

高まる北朝鮮情勢の緊張感、ドル円相場は暫く下値を探る展開か。

北朝鮮は今月3日(日)、昨年9月以来6回目となる核実験を実施した。同日、朝鮮中央テレビは大陸間弾道ミサイル(ICBM)搭載用の水爆実験に「完全成功」と発表し、これを受け、直後4日(月)の東京外国為替市場では、朝鮮半島情勢の緊迫化懸念からリスク回避の円買いが優勢となり、一時1米ドル=109円台前半まで下落した。その後も、9日(土)北朝鮮建国記念日前に大陸間弾道ミサイル(ICBM)を発射する可能性が報じられると、週末7日(金)には1米ドル=107円台前半まで下落した。本稿では、足元の円高進行の一因となった北朝鮮のイベント・ミサイル開発の推移を振り返り、今後のドル円相場について述べていく。

#### 2017年からのドル円相場の推移について

まず、2017年1月から現在までのドル円相場を振り返ってみる【図】。年初1米ドル=117円台半ばでスタートしたドル円相場は、その後1米ドル=108円~115円のレンジ相場を形成していたが、直近では上述した通り1米ドル=107円台半ばまで円高に進行している。

#### 北朝鮮のミサイル開発の推移のドル円相場の変化

次に北朝鮮によるミサイル開発の推移とドル円相場の変化について整理した【表1】。この間、北朝鮮によるミサイル発射回数は成功・失敗合わせて計12回、核実験を1回実施している。詳細をみると、特に5月以降はミサイル発射の失敗もなく、また7月以降は日本の排他的経済水域(EEZ)にも落下しており、北朝鮮のミサイル開発が着実に進み、日本への脅威が高まっているといえる。

また、ドル円相場の変化(前日-当日の当行TTMの差)をみると、複数要因があり今年7月までは円高・円安と入り混じった結果となっているものの、8月に入り北朝鮮情勢がクローズアップされてからは、弾道ミサイルが発射されるとリスク・オフが意識され、円高に進行していることが分かる。

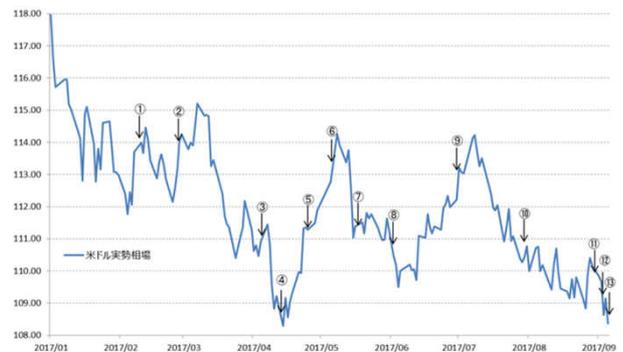
#### 今後の北朝鮮の主要イベントについて

最後に、足元の北朝鮮の主要イベントをまとめた【表2】。先週9日(土)は北朝鮮の「建国記念日」であり、ICBMの発射や核実験などを強行すると事前観測があったが、新たな挑発を見送り、沈黙した。これには週明け11日(月)国連安保理の制裁決議案を見極める狙いがあるとの報道もあり、また金正恩委員長は核開発のさらなる強化を目指していることから、一安心とはいかない。

次回の北朝鮮の主要イベントは来月10日(火)「朝鮮労働党創建記念日」であり、北朝鮮情勢には長期的な警戒感を持つ必要があるようだ。

(市場営業部/山添)

【図】2017年1月から現在までのドル円相場



【表1】北朝鮮によるミサイル開発の推移、ドル円相場の変化

付番	月・日	詳細	ドル円相場の変化 (前日-当日(※)の当行TTM)
①	2月12日	弾道ミサイルを発射し、約500km飛行した後、日本海に落下	(円安) +29 銭
②	3月06日	4発のミサイルを発射、内1発は石川県の能登半島沖約200kmの日本海上に落下	(円高) -47 銭
③	4月05日	日本海に向け、弾道ミサイル1発を発射、60km程飛んだ模様	(円高) -18 銭
④	4月16日	失敗	(円高) -93 銭
⑤	4月29日	失敗	(円安) +20 銭
⑥	5月14日	弾道ミサイル1発を発射、朝鮮半島東側400km付近の日本海に落下	(円高) -54 銭
⑦	5月21日	弾道ミサイル1発を発射し、ミサイルは約500km飛行し北朝鮮東岸から東へ約350kmの日本海上に落下	(円安) +14 銭
⑧	6月08日	弾道ミサイルを数発日本海側に発射し、ミサイルは約200km程飛行	(円安) +49 銭
⑨	7月04日	弾道ミサイル1発を発射、秋田県の男鹿半島から約300kmの日本の排他的経済水域(EEZ)内に落下	(円安) +1 円00 銭
⑩	7月28日	弾道ミサイルを発射し、北海道の積丹半島西約200km付近(EEZ)に落下	(円安) +15 銭
⑪	8月26日	弾道ミサイル3発を発射、1発は発射直後に爆発し失敗、2発は北東方向に約250km飛行	(円高) -69 銭
⑫	8月29日	弾道ミサイル1発を発射、上空で3つに分離し北海道襟裳岬東方1180kmの太平洋上に落下	(円高) -27 銭
⑬	9月03日	昨年9月以来6回目となる核実験を実施	(円高) -33 銭

【表2】北朝鮮の主要イベントについて

月・日	イベント
9月9日	建国記念日
10月10日	朝鮮労働党創建記念日
12月17日	金正日氏の命日

(出所 Bloomberg)

## ご留意事項

- ・本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引の申し込みでも、取引締結の推奨でもなく、売買若しくは何らかの取引を行うことを助言したり、または勧誘したりするものではありません。
- ・本資料の内容につき、当行はその正確性及び完全性を保証するものではなく、一切の責任を負いません。ご利用に際しては、ご自身のご判断をお願いします。
- ・本資料に基づき、お客さまが投資のご判断をされた結果に基づき生じた損害・損失等については、当行は一切責任を負いません。
- ・本資料は著作物であり、著作権法により保護されております。無断で本資料の全部または一部を複製、送信、転載、譲渡および配布することはできません。
- ・本資料に掲載された各見通しは本資料作成時点での各執筆者の個人的見解に基づいており、それらは必ずしも当行の見解を反映しているとは限らず、また、予告なしに変更される場合があります。



商号：株式会社あおぞら銀行（登録金融機関 関東財務局長（登金）第8号）  
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、日本商品先物取引協会